

北上盆地の背にそびえる「栗駒山」

2001. 9. 22. krkma0.htm by M.Nakanishi



東北新幹線が仙台・古川を過ぎると眼前一杯に広がる緑の高原の中を北に向かって突っ走る。この高原を新幹線が抜けるといつも「いよいよ東北の真っ只中に踏み込んだ」の感じがしてくる。この右手車窓に広い高原に連なって一群の大きな山塊が見え、その背後には淡い青色の奥羽山脈の連なりが南北に長く伸びている。栗駒高原と宮城・岩手・秋田の県境にそびえる「栗駒山」である。



深田久弥は「日本百名山」には入れなかったが、その堂々とした山塊に「東北でもう一つ入れたかった山」と聞く。

南の宮城県側には広大な栗駒高原が広がる一方、岩手県側の背後には栗駒山から延々と続く奥羽山脈と北上山地に囲まれ、かつて中世には東北文化の中心であった一関・平泉・胆沢などの北上盆地が広がる。

昔家内と初めて一緒に行ったところが、この一関・平泉。

地図をにらみながら、「宮城県側から登って岩手県側須川温泉へ降りて一関・平泉にゆけたら・・・」と栗駒山行きを計画。

9.22.快晴。早朝 東北新幹線初発の「やまびこ」に飛び乗る。紅葉にはちょっと早い、夏の喧騒もとれ、ゆっくりと山に登れそう。9時過ぎに「栗駒高原駅」に降り、駅前からはバス。

人影は全くひっそりしている。駅前広場にも人影無く栗駒山行のバスが一台止まっているのみ。駅の正面からは広大に広がる田圃の向こうに栗駒山の山塊が見えるが、駅前広場をはさんで水車の大きなモニュメントやたて看板が立ち、雄大な栗駒山の姿を阻んでいる。台無しである。

美しい山であるのにやっぱり、「日本百名山」から外れたためか 今の登山ブームから少し取り残されたのか 地元でもそれほど人気が無いのか・・・

バスは栗駒高原駅から栗駒町を通過して宮城県側の登山口「岩鏡平」まで約1.5hr。乗客は私だけ。貸切である。

夏と紅葉の季節にはハイカーで一杯とのことであるが、ほとんどがマイカーで車を使わないものにとっては益々交通の便が悪くなる。運転手さんのガイド役で栗駒の話など聞きながら古い栗駒町の町並みを通り過ぎ、山へ登ってゆく。



東栗駒山から栗駒山



東栗駒山

栗駒牛と栗駒大根の産地 そして 栗駒町は古い城下町などと色々教えてもらったが、関西の僕には全くわからず。

栗駒の頂上付近が少し赤くなっている。

紅葉が始まっているが、全山真っ赤になるのはもっと先。眼下に栗駒町からはるか太平洋にむかって広がる平野を眺めながら次第に高度を上げ、くりこま高原駅からほぼ1.5hrで栗駒山の中腹、岩鏡平につく。風が冷たい。やっぱり秋の風である。

正面にはどっしりと左右均整のとれた栗駒山が青空に映えている。駐車場は車で一杯。やっぱり 多くのハイカーが栗駒山正面の道を登ってゆく。たった一人のバスで想像していたほどでなし。多くの人々が登ってゆく正面へ行かず、右の灌木帯の中の道をとって、東栗駒山から栗駒山への尾根道をたどり、頂上へ向かう。そして、頂上から天狗岩への稜線を歩いて、そこから昭和湖・名残が原・須川温泉へと下る計画。



栗駒山頂

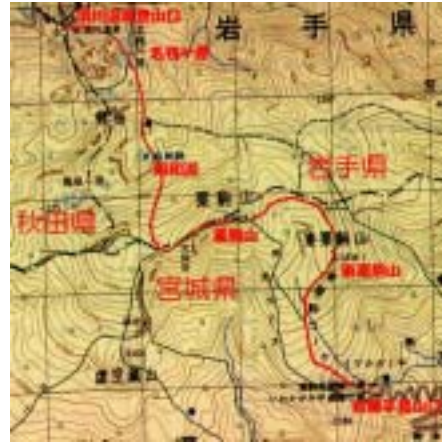


栗駒山直下の草紅葉岩手県側



昭和湖

【1】宮城県側登山口・東栗駒山・栗駒山頂上へ 2001. 9. 22.



少し色づいた灌木の中の道を約 30 分ほど登ると一端を駒ケ岳 もう一方の端を東駒ケ岳とする長い弓状に反り返った稜線の一端 青空にピンと突き上げた東駒ケ岳が見えてくる。



栗駒高原・太平洋を望む 右端蔵王連峰 東栗駒山登山道で

また、木々の間から、均整の取れた姿で裾をひく駒ケ岳も垣間見得る。振り返ると南には蔵王連峰が霞んだ空に浮かび、北には北上の山々が浮かんでいる。眼前には栗駒町をちゅうしんとした田園地帯が広がり、太平洋へと続いている。

灌木帯の中から滝と見まがうゴロゴロした岩だらけの川筋に飛び出した。駒ケ岳と東駒ケ岳の鞍部からまっすぐ下へ流れ下っている。この川の端に青い大柄なリンドウが花をつけている。リンドウにはいくつも種類があるが、今年見たリンドウの中で一番大柄な花。リンドウとはるか太平洋へと広がる景色を眺めながら流れ下る川に顔を突っ込み水を飲み干す。ふっと一息いれる山一番の楽しみ的时候了。



リンドウの花登山道で

川をトラバースして少し上ると灌木帯を抜け、這い松帯の東駒ケ岳への尾根道にかかる。

風が直接顔に吹きつけ、夏姿では寒い。もう 秋を実感する。

眼前には一気に東栗駒山から栗駒山の広い稜線が壁のように立ちはだかっている。その一番右端の東栗駒山への尾根道を登る。高度が上がるにつれ、谷を隔てて対極にある栗駒山が小さな火口を従え、左右に均整の取れた裾野を広げ堂々とした姿として浮かび上がってくる。



東栗駒・栗駒山鞍部からの川



東栗駒山への登り



東栗駒山

登り初めて約 1.5hr で東栗駒山の頂上に立つ。風が強いが回りの山々と駒ヶ岳へのなだらかな這え松の稜線がよく見える。這え松と少し色づいた灌木とのコントラストが美しい。いよいよ栗駒山への登りである。栗駒山へ一直線に野へって行くガレ道が見える。周りが開け、心地よい風が吹いて、登りの疲れを感じない。反対の岩手県側の山々が見え出す。この栗駒山塊の北に位置する焼石岳の山塊も姿をあらわした。北側から南の方へ回り込むような形で一直線に頂上へ登ってゆく。頂上の直ぐ下で岩鏡平からまっすぐ頂上へ登ってくる道筋と合流。この尾根筋は草紅葉一色。淡い枯れ草色の絨毯を引くつめたように尾根筋全体が光輝いて風に揺れている。東栗駒山からの稜線伝いの道が背後に見えるが、全く違った景観。ここは風も吹いて もう 秋一色でした。



這え松の映える栗駒山

【東栗駒山から栗駒山の稜線で】



南 宮城側 栗駒町から太平洋



広がる這い松の間をいく稜線



北 岩手側 焼石岳の峰々



栗駒山 頂上へまっすぐ続く登山道



山頂を越る秋の草紅葉 宮城側側 岩鏡平コース 全貌

東栗駒コース及び中央コース

宮城県側 岩鏡平コース全貌と頂上直下に広がる秋の草紅葉

【2】 栗駒山頂上で 2001. 9. 22.



東栗駒山から約 1hr 弱で栗駒山頂上に立つ。南から東には蔵王連邦を背景に大平洋へ続く宮城の田園地帯が見られ、西から北には山形・秋田の山々月山・鳥海山が浮かび、その前には大きな焼石岳の山塊がどっしりと座っている。この焼石岳から東 東北の方向には今歩いてきた東栗駒山の稜線越しに早池峰など北上の峰々も見える。晴天の中 360 度の展望が楽しめる。

栗駒山頂上からの 360 度の景観



【西 北側 東】



【西 南側 東】



北西の端には薄っすら鳥海山が浮かび 出羽三山 南西には 蔵王の山々 北には焼石岳 早池峰の峰々も素晴らしい 360 度の景観。

北の眼下には紅葉がはじまった樹林につつまれた須川温泉 その中に乳白色の昭和湖・地獄谷が見えます。また、南には教上ってきた宮城側からの尾根筋は銀色にかがやき、その向こうには田園の広がる栗駒町 そして太平洋が……。足元では風にゆれる草紅葉した栗駒の斜面。

快晴の good な頂上はもう秋でした。

【 3 】 頂上から岩手県側 須川温泉へ下山

頂上・天狗岩－昭和湖・地獄谷－名残が原・須川温泉登山口



東方 眼下には小さな乳白色の湖が色づいた木々の間から見え、その先には須川温泉の建物が米粒のように見える。

頂上に約30分か程いて、岩手・宮城県境の稜線の道を西へ天狗岩へ下ってゆく。この天狗岩を少し先まで進んだところが、岩手・秋田・宮城の三県境の合流点であるが、その手前で尾根筋から右の樹林帯の中に飛び込み、眼下の昭和湖・須川温泉向いて一機に下る。

蒸気を吹き上げる乳白色の昭和湖の周りは少し紅葉が浅いが、そこはもう秋一色。白い幹のダテカンバも加わり美しい。周りの景色を楽しみながら須川温泉へ。



宮城県側がおとなしい優美な栗駒山の姿を見せているのに対し、反対側の岩手県側はこの山が火山である荒々しい表情を示している。



昭和湖の下の地獄谷では幾筋もの蒸気があがり、硫黄のにおい。そして尾根の木々はこの硫黄の蒸気で葉を落とし、白くなってつながっている。見上げるとその上に大きな栗駒山が覆いかぶさっている。





地獄谷から 栗駒山を眺む



地獄谷全景



名残が原から栗駒山

この栗駒山から流れ出た川の一端が一関・巖美径を経て北上川へ合流する。中世の昔 栄華を誇った藤原氏を支えた金山・鉱物などの宝の山の一つがこの谷筋に違いない。

そんな事を思い出させた地獄谷。ふいに夕闇が立ち込める広い原っぱへ 名前の由来は知らないが、名残が原へ。頂上から 周りの景色を楽しみながら約2時間で岩手県側の登山口須川温泉に到着。



家内と二人での旅のスタートの平泉・一関・巖美溪。巖美溪の急流を眺めながら 栗駒の山へ上って行く 須川温泉行のバスを見ながら、一度は行ってみたいと思っていた栗駒山・須川温泉。三十数年を経ってやっと登れました。朝早く出たので今日は時間あり。巖美溪を経て一関へ出て、北上盆地の端 この地方の「たたら」の痕跡を探すも由 久しぶりに金色堂へ行くも由。



暮れ行く周りの景色を眺めながら
須川温泉から 一関へのバスの中で・・・・・・・・

2001. 9. 22. by M.Nakanishi

北上盆地の背にそびえる「栗駒山」【完】